

2026年度研究会 募集一覧表

※開講曜日時限は変更となる可能性があります。すでに変更が決まっている研究会は赤字・黄色マーカーにて記載してあります。

学習支援システム 応募用コード一覧	科目名称	2026年度 担当教員名	2026年度 開講期	2026年度 開講曜日時限	関連するコース	関連するコース	テーマ
25100334	研究会B（人間環境演習）	岡松 暁子	春学期授業	月曜4時限	グローバル・サステイナビリティコース	-	国際社会の諸問題の解決において
25100335	研究会B（人間環境演習）	金藤 正直	春学期授業	金曜3時限	すべてのコース	-	ビジネスデザインの基礎知識や考え方を学ぶ
25100336	研究会B（人間環境演習）	金藤 正直	秋学期授業	金曜3時限	すべてのコース	-	ビジネスデザインの実践的活用方法を学ぶ
25100337	研究会B（人間環境演習）	金光 秀和	春学期授業	火曜3時限	すべてのコース	-	技術哲学の文献講読とディスカッション
25100338	研究会B（人間環境演習）	北川 徹哉	春学期授業	火曜5時限	すべてのコース	-	金融危機（リーマンショック）の裏側と関連トピックス
25100339	研究会B（経過措置）	小島 聡	年間授業	火曜5時限	すべての領域（主にRSP生用）	-	サステナビリティと現代社会
25100340	研究会B（人間環境演習）	櫻井 洋介	春学期授業	木曜3時限	サステイナブル経済・経営コース	グローバル・サステイナビリティコース	サステナビリティ経営の基礎と実務
25100341	研究会B（人間環境演習）	櫻井 洋介	秋学期授業	木曜3時限	サステイナブル経済・経営コース	グローバル・サステイナビリティコース	ビジネスと人権
25100342	研究会B（人間環境演習）	杉戸 信彦	春学期授業	火曜3時限	すべてのコース	-	災害の歴史と経験を考えるー発生・対応・現代へー
25100343	研究会B（人間環境演習）	杉野 誠	秋学期授業	木曜3時限	すべてのコース	-	温暖化対策・エネルギー問題を経済の視点から考える
25100344	研究会B（人間環境演習）	ESTHER STOCKWELL	春学期授業	月曜2時限	すべてのコース	-	人間コミュニケーション I
25101001	研究会B（人間環境演習）	ESTHER STOCKWELL	秋学期授業	月曜2時限	すべてのコース	-	人間コミュニケーション II
25100345	研究会B（人間環境演習）	高田 雅之	春学期授業	木曜2時限	すべてのコース	-	緑豊かで生物息づく都市に向けて
25100346	研究会B（人間環境演習）	高橋 五月	春学期授業	木曜3時限	すべてのコース	-	文化人類学的エスノグラフィーの基礎を学び、文化を探る①
25101403	研究会B（人間環境演習）	高橋 五月	秋学期授業	木曜3時限	すべてのコース	-	文化人類学的エスノグラフィーの基礎を学び、文化を探る②
25100347	研究会B（人間環境演習）	永野 秀雄	春学期授業	金曜4時限	グローバル・サステイナビリティコース	-	英文契約の基礎
25100348	研究会B（人間環境演習）	芳賀 和樹	春学期授業	月曜5時限	すべてのコース	-	人間と森林の〈過去〉〈現在〉〈未来〉
25100349	研究会B（人間環境演習）	長谷川 直哉	春学期授業	火曜5時限	サステイナブル経済・経営コース	ローカル・サステイナビリティコース	責任ある経営とは何かを考える
25101401	研究会B（人間環境演習）	長谷川 直哉	秋学期授業	火曜5時限	サステイナブル経済・経営コース	ローカル・サステイナビリティコース	日本企業のサステナビリティ変革事例に学ぶ
25100350	研究会B（人間環境演習）	日原 傳	秋学期授業	月曜4時限	すべてのコース	-	詩歌（俳句・短歌・漢詩など）を読む
25100351	研究会B（人間環境演習）	湯澤 規子	春学期授業	火曜5時限	すべてのコース	-	持続可能な社会を考える「問い」を立てる、考える
25100352	研究会B（人間環境演習）	吉永 明弘	春学期授業	木曜3時限	すべてのコース	-	環境倫理学・環境美学のテキストを読む
25100353	研究会B（人間環境演習）	吉永 明弘	秋学期授業	木曜3時限	すべてのコース	-	環境倫理学・動物倫理学のテキストを読む
25100354	研究会B（人間環境演習）	渡邊 誠	春学期授業	火曜4時限	すべてのコース	-	I Tパスポート試験とその応用（テクノロジ編）
25101002	研究会B（人間環境演習）	渡邊 誠	秋学期授業	火曜4時限	すべてのコース	-	I Tパスポート試験とその応用（ストラテジ・マネジメント編）

# 2026 年度研究会募集要項

研究会B（人間環境演習）を希望する学生は、全員必ず応募を行ってください。

B		学習支援システム応募用授業コード		25100334	
テーマ	国際社会の諸問題の解決にむけて				
担当者	岡松 暁子	開講期	春	※変更可能性有 曜日時限	月曜日 4 限
関連するコース	グローバル・サステナビリティコース（他コース専攻の学生の履修を妨げない）				
授業の到達目標			授業のテーマ		
国際社会の諸問題を解決するための手段、方法を多角的な視点から考えることができるようになる。			国際社会の諸問題を題材として、発表、討論を行う。		
授業の進め方					
・参加者の関心のあるテーマについて、関連する文献を講読し、議論を行う。 ・自分の関心のあるテーマについて、報告をする。 ・その他、受講者の希望により決定する。 ・受講者の希望により、英語文献の購読も行う。					
学生の皆さんへのメッセージ					
国際関係の諸問題について考えたい学生、積極的な姿勢で取り組む学生の参加をお待ちいたしております。					
授業外で行うべき学習活動（準備学習等）			成績評価基準		
毎回の予習、報告準備			報告、議論への貢献		
募集にあたってのお知らせ（選抜方法・その他）					
募集対象学年	新 2 年生、新 3 年生、新 4 年生				
1. 募集人数：20 名程度 2. 選抜方法：志望調査票の内容。  質問のある方は、下記にメールを送ってください。 問合せ先：岡松 暁子（okamatsu@hosei.ac.jp）					
オープンゼミ・説明会					
オープンゼミ開催有無	無	春学期のみのゼミのため、オープンゼミはありません。 質問がある場合には、メールにて問い合わせてください。			
説明会開催有無	無	okamatsu@hosei.ac.jp			
備考					
サブゼミとして、外部講師の講演会や、卒業生による講演会を開催することがあります。自由参加です。					

# 2026 年度研究会募集要項

研究会B（人間環境演習）を希望する学生は、全員必ず応募を行ってください。

<b>B</b>		学習支援システム応募用授業コード		25100335	
テーマ	ビジネスデザインの基礎知識や考え方を学ぶ				
担当者	金藤 正直	開講期	春学期	※変更可能性有 曜日時限	金曜日 3限
関連するコース	すべてのコース				
授業の到達目標			授業のテーマ		
<p>新たなビジネスモデルを構築するためには、現場に根ざした確かな調査力や分析力が不可欠です。そのため、ここでは、欧米や日本の企業や地域が実践している持続可能なビジネスの事例を文献から読み解きながら、アンケート調査やヒアリング調査の基礎的な技法を体系的に学習します。</p>			<p>企業や自治体、その他関係機関とも連携しながら、「読む」、「書く（描く）」、「調べる」、「考える」、「つくる」、「話す（報告する）」、「計算する」、「分析・評価する」、といった将来に必要なスキルの向上を目指します。</p>		
授業の進め方					
<p>① 現在取り組んでいる研究・調査のテーマや関心のあるテーマを分析し、検討していきます。</p> <p>② 研究・調査計画書を作成し、それをもとに企業などと連携しながら研究・調査を進めていきます。</p> <p>③ ②の成果については、<b>中間報告</b>を行い、また<b>レポート</b>も作成します。</p> <p>※各メンバーのレベルアップのために、大学、企業、自治体のイベント、学会などにも参加し、成果報告を行う予定です。</p>					
学生の皆さんへのメッセージ					
<p>現在取り組んでいる研究・調査や新たな課題に対して前向きに挑戦し、他者への思いやりを大切にしながら、最後まで責任を持ってやり遂げる皆さんと学べることを楽しみにしています。</p>					
授業外で行うべき学習活動（準備学習等）			成績評価基準		
<p>企業や自治体、関係機関とのミーティングや関連イベントに参加しながら、研究・調査やビジネスプランの視点・方法・内容を検討していきます。楽しみながら前向きに、そして計画的に取り組んでください。</p>			<p>本演習の成績は次の<b>4点</b>に基づいて評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・討論への参加（発言内容）(20%)</li> <li>・報告用配布レジュメの内容(20%)</li> <li>・報告内容（プレゼンテーション能力）(30%)</li> <li>・研究・調査計画書（中間レポート）(30%)</li> </ul>		
募集にあたってのお知らせ（選抜方法・その他）					
募集対象学年	15名程度（新2年生、新3年生、新4年生の合計人数）を募集します。				
【選抜方法】					
<p>① 「研究会志望調査票」と「面接試験の内容」をもとに選抜します。</p> <p>② 面接試験の日程や可否の結果報告は、<b>メールまたは学習支援システム</b>で行いますので、各自確認してください。</p>					
【その他】					
<p>① 研究・調査計画書または計画書に基づいたレポートの執筆は<b>必須</b>とします。</p> <p>② <b>研究・調査先、国内外の学会、自治体などのイベントでの研究報告や論文投稿</b>も行います。</p>					
オープンゼミ・説明会					
オープンゼミ開催有無	無	ゼミに関する詳細については以下までご連絡ください。個別に対応します。 ※金藤：kanetoh@hosei.ac.jp			
説明会開催有無	無				
備考					
<p>研究・調査の方法（議論の進め方、報告・傾聴の姿勢、質問の仕方と対応など）は、将来に向けて身につけるべき重要なスキルです。現在の研究・調査の進め方や、今後取り組むテーマに悩んでいる方は、ぜひ遠慮なく質問してください。</p>					

# 2026 年度研究会募集要項

研究会B（人間環境演習）を希望する学生は、全員必ず応募を行ってください。

<b>B</b>		学習支援システム応募用授業コード		25100336	
テーマ	ビジネスデザインの実践的活用方法を学ぶ				
担当者	金藤 正直	開講期	秋学期	※変更可能性有 曜日制限	金曜日 3限
関連するコース	すべてのコース				
授業の到達目標			授業のテーマ		
春学期に得た知見をもとに、実際のビジネスプランや社会課題の解決策に応用する方法を検討し、企業や自治体との対話やフィールドワークを通じて、調査結果を企画・提案に繋げていく力を養います。また、理論と実践を往復しながら、自らの提案を形にしていけるプロセスを身につけていきます。			企業や自治体、その他関係機関とも連携しながら、「読む」、「書く（描く）」、「調べる」、「考える」、「つくる」、「話す（報告する）」、「計算する」、「分析・評価する」、といった将来に必要なスキルの向上を目指します。		
授業の進め方					
<p>① 現在取り組んでいる研究・調査のテーマや関心のあるテーマを分析し、検討していきます。</p> <p>② 研究・調査計画書を作成し、それをもとに企業などと連携しながら研究・調査などを進めていきます。</p> <p>③②での成果については、<b>中間報告や最終報告</b>を行い、また<b>レポート</b>も作成します。</p> <p>※各メンバーのレベルアップのために、大学、企業、自治体のイベント、学会、インゼミ、エコプロなどにも参加し、研究成果の報告を行う予定です。</p>					
学生の皆さんへのメッセージ					
現在取り組んでいる研究・調査や新たな課題に対して前向きに挑戦し、他者への思いやりを大切にしながら、最後まで責任を持ってやり遂げる皆さんと学べることを楽しみにしています。					
授業外で行うべき学習活動（準備学習等）			成績評価基準		
企業や自治体、関係機関とのミーティングや関連イベントに参加しながら、研究・調査やビジネスプランの視点・方法・内容を検討していきます。楽しみながら前向きに、そして計画的に取り組んでください。			<p>本演習の成績は次の<b>4点</b>に基づいて評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・討論への参加(発言内容)(20%)</li> <li>・報告用配布レジュメの内容(20%)</li> <li>・報告内容(プレゼンテーション能力)(20%)</li> <li>・研究・調査計画書に基づいたレポート(40%)</li> </ul>		
募集にあたってのお知らせ（選抜方法・その他）					
募集対象学年	15名程度（新2年生、新3年生、新4年生の合計人数）を募集します。				
【選抜方法】					
<p>① 「研究会志望調査票」と「面接試験の内容」をもとに選抜します。</p> <p>② 面接試験の日程や可否の結果報告は、<b>メールまたは学習支援システム</b>で行いますので、各自確認してください。</p>					
【その他】					
<p>① 研究・調査計画書または計画書に基づいたレポートの執筆は<b>必須</b>とします。</p> <p>② 研究・調査先、国内外の学会、自治体などのイベントでの<b>研究報告や論文投稿</b>も行います。</p>					
オープンゼミ・説明会					
オープンゼミ開催有無	無	ゼミに関する詳細については以下までご連絡ください。個別に対応します。			
説明会開催有無	無	※金藤：kanetoh@hosei.ac.jp			
備考					
研究・調査の方法（議論の進め方、報告・傾聴の姿勢、質問の仕方と対応など）は、将来に向けて身につけるべき重要なスキルです。現在の研究・調査の進め方や、今後取り組むテーマに悩んでいる方は、ぜひ遠慮なく質問してください。					



# 2026 年度研究会募集要項

研究会B（人間環境演習）を希望する学生は、全員必ず応募を行ってください。

B		学習支援システム応募用授業コード		25100337	
テーマ	技術哲学の文献講読とディスカッション				
担当者	金光 秀和	開講期	春学期	※変更可能性有 曜日時限	火曜日 3 限
関連するコース	すべてのコース				
授業の到達目標			授業のテーマ		
技術哲学に関する学術的文献の精読によって、現代社会で技術が果たす役割について① <u>専門的な知識を得ること</u> 、さらにその過程で、② <u>学術文献を読むための基本的なスキルを身につけること</u> を目標とします。また、文献講読で扱ったテーマについて、ディスカッション(あるいは対話)を行うなかで、技術が果たす役割について③ <u>批判的に思考できること</u> 、さらにその過程で、自分の考えを表現する、他者の考えを傾聴する、他者ととともに考えるといった、④ <u>ディスカッションや対話のための基本的なスキルを身につけること</u> を目標とします。			高度科学技術社会とも呼ばれる現代社会において、技術はなくてはならない存在です。技術は、人間と環境の共存、人間と人間の共存にも大きな役割を演じ、持続可能な社会を実現するためにも必要な存在です。しかし、私たちは <u>技術が現代社会で果たす役割</u> をどれだけ考えたことがあるでしょうか。たとえば、技術的人工物がいかにデザインされ、その <u>デザインが私たちの行為や生活をどのように変えているか</u> をどれだけ考えたことがあるでしょうか。この研究会では、このような問題意識を持ちながら、 <u>技術哲学</u> を授業のテーマとします。		
授業の進め方					
学術的文献の講読を基本とします。文献講読は、特に予習は必要なく、授業中に参加者で輪読します。また、文献講読で扱ったテーマなどをもとに、 <u>ディスカッションや対話</u> を行います(ディスカッションと対話の違いについては授業中に説明します)。参加者の人数にもよりますが、学期中に 2～3 回程度実施する予定です。ディスカッション・対話の際には、企画と司会を何人かのグループで担当してもらいます。なお、2026 年度は、金光秀和・吉永明弘編『技術哲学』、村田純一『技術の哲学』、パパネック『生きのびるためのデザイン』、ダン他『スペキュラティブ・デザイン』などの文献講読を考えていますが、最終的には参加者と相談をして決定します。					
学生の皆さんへのメッセージ					
次のような方のご応募を期待します。 ・「科学技術社会論」や「技術哲学」の授業内容やテーマに興味を持った方 ⇒一番ぴったりだと思います。 ・この分野についてはあまり勉強したことはないが、興味自体はある方 ⇒その興味をぜひ大切にしてください。 ・分野はともかく、学術的文献の読み方を学びたい方 ⇒どのような分野に出会うかは運です。まずは読んでみましょう。 ・文献を読むのはあまり得意ではないが、ディスカッションが好きな方 ⇒そうした方も大歓迎です。 ※なお、金光・A ゼミの新 2 年生も参加する予定です。					
授業外で行うべき学習活動（準備学習等）			成績評価基準		
文献講読（必要に応じて予習・復習）、ディスカッション・対話の企画・運営などを行います。			平常点（文献講読担当、ディスカッション・対話担当等）を 80%、年度末レポートを 20%として評価します。		
募集にあたってのお知らせ（選抜方法・その他）					
募集対象学年	新 2～4 年生				
志望理由書を書いてもらい、Zoom ないしは対面で面接を行い決定します。 複数年連続しての継続履修、他研究会との重複履修のいずれも原則可能です。必要に応じて相談してください。					
オープンゼミ・説明会					
オープンゼミ開催有無	有	オープンゼミ・説明会の情報詳細は 学習支援システムに仮登録して確認してください。			
説明会開催有無	無				
備考					
各種情報は学習支援システムに掲載するので、興味がある人はまずは仮登録をしてください。					

# 2026 年度研究会募集要項

研究会B（人間環境演習）を希望する学生は、全員必ず応募を行ってください。

<b>B</b>		学習支援システム応募用授業コード		25100338	
テーマ	金融危機（リーマンショック）の裏側と関連トピックス				
担当者	北川徹哉	開講期	春学期	※変更可能性有 曜日時限	火曜日 5 限
関連するコース	すべてのコース				
授業の到達目標			授業のテーマ		
1. 銀行などの金融機関の役割を説明できる。 2. 金融危機に至るまでの背景を説明できる。 3. 金融危機が起こってしまったときに、社会が被るダメージを説明できる。			リーマンショックと呼ばれる 2008 年の金融危機を題材として、その背景や特性に関する初歩的内容について勉強します。また、その金融危機が世界や日本に与えた衝撃について知るとともに、それを回避するためにはどうすべきであったのかを考えます。		
授業の進め方					
このテーマは 2026 年度からスタートしますので、学生さんといっしょに試行錯誤しながら、初歩的なところから勉強してゆきたいと思います。したがって、こういったテーマに興味がなかった学生さんでも取り掛かりやすいはず。また、何となく経済や金融などに興味はあるけど勉強する機会がなかった学生さん、あるいは就職希望の業種が定まらずに迷っている学生さんにもむいているゼミです。このゼミは学生さんに金融等に関する知識がないことを前提にジワジワ、まったりと進んでいきます。具体的には、まず数回（何回になるかわかりません）にわたって担当教員が話しをします。その後、学生さんはグループにわかれ、グループごとに本テーマに関連するトピックスを選んで調査します。そして、このゼミの取りまとめとして、春学期の末ごろに各グループが調査内容と考察をパワーポイントで発表します。					
学生の皆さんへのメッセージ					
・このゼミは初学者むけです。ちょっと勉強してみようかな、この時間あいているし、といった志望動機で問題ありません。 ・初めて直面する内容が多いと思いますので、たとえ間違えてしまっても、それは当然であり、それを楽しむくらいで丁度よいのです。むしろ、間違えたこと、わからなかったこと、困っていること、を隠さずに言えれば、それはあなたの魅力の一つとなります。 ・学生さん同士でお互いに助け合いながら、知識を少しずつ増やしてゆきましょう。					
授業外で行うべき学習活動（準備学習等）			成績評価基準		
復習、資料の熟読、調査、発表の準備			参加、発表、質疑応答、討論などによる総合評価		
募集にあたってのお知らせ（選抜方法・その他）					
募集対象学年	新 2～4 年生				
基本的に、志望理由書での書類選考とします。面接は希望者のみ、Zoom で行います。面接を希望する場合は、北川までメール（アドレスは下記の備考を参照）にて、学生証番号・氏名、面接希望の旨、面接の希望日時（第 3 候補くらいまで書いてください）をご連絡ください。折り返し、面接日時と Zoom 情報を返信します。					
オープンゼミ・説明会					
オープンゼミ開催有無	無	オープンゼミ・説明会の情報詳細は 学習支援システムに仮登録して確認してください。			
説明会開催有無	無				
備考					
質問などありましたら、北川までメール（kitagawa@hosei.ac.jp）をください。					

# 2026 年度研究会募集要項

研究会B（人間環境演習）を希望する学生は、全員必ず応募を行ってください。

<b>B</b> (RSP 用)		学習支援システム応募用授業コード		25100339	
テーマ	サステナビリティと現代社会				
担当者	小島 聡	開講期	通年	※変更可能性有 曜日時限	火曜日 5 限
関連する領域	全ての領域 ※人間環境学部 HP の RSP の説明を参照				
授業の到達目標			授業のテーマ		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・持続可能性に対する幅広い視野と教養、現代社会の動向に関する見識を身につける。</li> <li>・持続可能性に関する課題解決のための構想力やプロジェクト企画のデザイン力を身につける。</li> </ul>			SDGs を視野に入れながら、現代の日本社会を俯瞰し、持続可能性に関する課題解決に向けた創造的実践(ソーシャル・デザイン・ソーシャル・イノベーション)について考えます。		
授業の進め方					
<p>①持続可能性と関連概念としてのウェルビーイング、インクルージョンなどに対する基礎知識を身につけながら、SDGs の動向についても確認します。②人口減少、移住・関係人口、高齢化・少子化、障がい者の社会的包摂、空き家・空き地問題、商店街の衰退、過疎化と東京一極集中、都市・地域再生、市民参加のまちづくり、コミュニティ、孤立・孤独、貧困と格差、ジェンダー平等、多文化共生、地域文化・ソーシャルアート(社会的課題解決への芸術の活用)、地球温暖化、自然環境、災害、食料、農林水産業、資源循環と消費、再生可能エネルギー、交通といった諸課題に目を向けます。私の専門が地域のため、地域の持続可能性に直接または間接的に関連したテーマが中心になりますが、平和や地域の地域の国際化などグローバル(グローバル×ローカル)なテーマを含め、参加者の問題関心を確認しながら、できるかぎり幅広いテーマを取り上げて行きたいと思います。③持続可能な社会を実現するための創造的実践(ソーシャル・デザイン・ソーシャル・イノベーション)と、④市民、企業、NPO、自治体などのステークホルダーの役割やパートナーシップについて検討します。⑤最終的に参加者には、〈My SDGs〉として、任意のテーマについて課題解決のためのプロジェクト企画を考えて発表します。</p> <p>以上の内容について、文献、映像、討論・ワークショップ、ゲスト、ミニ・フィールドスタディなど、様々な手法を試みる予定です。なお、2026 年度は私が担当する一般学生の研究会との連携の機会も模索します。</p>					
学生の皆さんへのメッセージ					
<p>たとえ小さな挑戦であったとしても、未来への希望になりうるような実践にも目を向けながら、持続可能な社会について議論しましょう。また各人が R S P におけるそれぞれの目標の達成に研究会を活かしつつ、同時に、これからのライフ・デザインにも役立ててほしいと考えています。さらに、R S P 生間の共助(ピアサポート)とともに、様々な人生を歩んできた社会人学生のみなさんが集った偶然を大切にして、R S P 生のコミュニティ形成を図っていききたいと思います。</p>					
授業外で行うべき学習活動(準備学習等)			成績評価基準		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・文献等の予習</li> <li>・テーマに関する調査と資料作成</li> </ul>			積極性・協調性をはじめとする研究会への参加姿勢と、課題への取り組みなどによる総合評価とします。		
募集にあたってのお知らせ(選抜方法・その他)					
募集対象学年	2026 年度に R S P に所属する社会人学生(2~4 年)、10~15 名程度。 ※2025 年度の研究会から継続履修を希望する学生を優先します。				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・志望書と面接で選考する予定です。</li> <li>・質問などは、メール(<a href="mailto:skojima@hosei.ac.jp">skojima@hosei.ac.jp</a>)で受けつけます。</li> </ul>					
オープンゼミ・説明会					
オープンゼミ開催有無	有	情報詳細は学習支援システムに仮登録して確認してください。学部主催の説明会には参加しませんが、オープンゼミ修了後に相談の時間を設ける予定です。			
説明会開催有無	無				
備考					
2026 年度までは研究会 B(通年)として実施しますが、2027 年度からは研究会 A(通年)に変更します。そのため、2026 年度は複数の研究会の重複履修が可能ですが、2027 年度からは 1 つの研究会のみの履修になります。					

## 2026 年度研究会募集要項

研究会B（人間環境演習）を希望する学生は、全員必ず応募を行ってください。

<b>B</b>		学習支援システム応募用授業コード		25100340	
テーマ	サステナビリティ経営の基礎と実務				
担当者	櫻井 洋介	開講期	春学期	※変更可能性有 曜日時限	木曜日3限
関連するコース	サステナブル経済・経営コース      グローバル・サステナビリティコース				
授業の到達目標			授業のテーマ		
<ul style="list-style-type: none"> <li>「サステナビリティ経営」について、基礎的な理論や枠組みを体系的に学ぶとともに、企業の実務における実態や課題を理解することを目指す。</li> <li>環境問題、労働・人権課題、サプライチェーン管理、情報開示・ステークホルダー対応など、サステナビリティ経営に関連する多様なテーマを幅広く取り上げ、今後それらをより専門的に探究していくための土台となる知識を身につけることを目的とする。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>本授業では、現代の企業経営において重要な課題となっている「サステナビリティ経営」について、基礎から体系的に学ぶ。</li> <li>企業が環境・社会・ガバナンス(ESG)の観点から持続可能な価値創造を目指すうえで必要となる理論的枠組みを理解するとともに、具体的な企業事例や政策動向を通じて、理論と実務の両面からサステナビリティ経営の課題を考える。</li> </ul>		
授業の進め方					
<ul style="list-style-type: none"> <li>講義形式を通じた基礎知識のインプットを行った上で、ディスカッションやグループワーク等を行います。</li> <li>授業の後半には、プレゼンテーション発表を行っていただきます。</li> <li>外部のゲストスピーカーの招聘や、校外学習を行うことがあります(校外学習の場合は、木曜4限の研究会と合同で行うことがあります)。</li> </ul>					
学生の皆さんへのメッセージ					
<ul style="list-style-type: none"> <li>サステナビリティ経営に関連する様々な課題を研究していくためには、前提としてその全体像を体系的に理解することが必要不可欠です。今後、研究会等で各自の興味関心領域について深く探求していくための基礎を身につけてもらえればと思います。</li> </ul>					
授業外で行うべき学習活動（準備学習等）			成績評価基準		
<ul style="list-style-type: none"> <li>テキスト講読、文献調査、資料作成、発表準備 等</li> <li>「サステナ経営検定3級」の受検を推奨します。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>議論への貢献度やプレゼン発表等をもとに総合的に評価します。</li> </ul>		
募集にあたってのお知らせ（選抜方法・その他）					
募集対象学年	新2年生～4年生				
<ul style="list-style-type: none"> <li>志望者が多数の場合にのみ、志望調査票による選考を行います。詳細は学習支援システムを確認して下さい。</li> <li><u>担当教員の研究会「人権尊重の経営と労働 CSR」を履修する学生は、本演習を履修して下さい。</u></li> </ul>					
オープンゼミ・説明会					
オープンゼミ開催有無	無	質問があれば、担当教員まで直接ご連絡下さい( <a href="mailto:sakurai@hosei.ac.jp">sakurai@hosei.ac.jp</a> )			
説明会開催有無	無				
備考					
<ul style="list-style-type: none"> <li>担当教員は実務家教員(現役のサステナビリティコンサルタント)であり、「ビジネスと人権」や「労働 CSR」、「サプライチェーン管理」等を専門にコンサルティング業務に従事しています。それらの経験を踏まえて、具体的な事例を交えながら授業を行います。</li> </ul>					



## 2026 年度研究会募集要項

研究会B（人間環境演習）を希望する学生は、全員必ず応募を行ってください。

<b>B</b>		学習支援システム応募用授業コード		25100341	
テーマ	ビジネスと人権				
担当者	櫻井 洋介	開講期	秋学期	※変更可能性有 曜日時限	木曜日3限
関連するコース	サステナブル経済・経営コース      グローバル・サステナビリティコース				
授業の到達目標			授業のテーマ		
<ul style="list-style-type: none"> <li>「ビジネスと人権」に関する国際的な議論の動向や理論的枠組みを体系的に学び、企業活動と人権の関係性や企業の責任について理解することを目指す。</li> <li>サプライチェーン・労働・ダイバーシティ・人的資本・キャリア等、企業の社会的側面や「人」に関する多様なテーマを幅広く取り上げ、それらを専門的に探究していくための基礎知識と分析力を身につけることを目的とする。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>本授業では、「ビジネスと人権」を中心に、サステナビリティ経営の社会(S)領域に関する理論と実務を学ぶ。</li> <li>企業が社会的課題にどのように向き合うべきかについて、国際的な動向や企業の取組事例を通じて考察し、持続可能な企業経営のあり方を探求する。</li> <li>「人」に関連する様々なサステナビリティ課題を取り上げることで、持続可能な組織と個人の関係性を多角的に考察する。</li> </ul>		
授業の進め方					
<ul style="list-style-type: none"> <li>講義形式を通じた基礎知識のインプットを行った上で、ディスカッションやグループワーク等を行います。</li> <li>授業の後半には、プレゼンテーション発表を行っていただきます。</li> <li>外部のゲストスピーカーの招聘や、校外学習を行うことがあります(校外学習の場合は、木曜4限の研究会と合同で行うことがあります)。</li> </ul>					
学生の皆さんへのメッセージ					
<ul style="list-style-type: none"> <li>本授業では、サステナビリティ経営の中でも、近年、特に重要性が高まっている「ビジネスと人権」を中心に、社会(S)領域の課題について取り上げます。</li> <li>サステナビリティ経営に関する基礎知識を土台として、企業の人権や労働に関わる課題を具体的に検討し、問題の本質や解決の方向性を考える課題発見力や論理的思考力、バランス感覚を養っていくことを目指します。</li> </ul>					
授業外で行うべき学習活動(準備学習等)			成績評価基準		
<ul style="list-style-type: none"> <li>テキスト講読、文献調査、資料作成、発表準備 等</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>議論への貢献度やプレゼン発表等をもとに総合的に評価します。</li> </ul>		
募集にあたってのお知らせ(選抜方法・その他)					
募集対象学年	新2年生～4年生				
<ul style="list-style-type: none"> <li>志望者が多数の場合にのみ、志望調査票による選考を行います。詳細は学習支援システムを確認して下さい。</li> <li><b>担当教員の研究会「人権尊重の経営と労働 CSR」を履修する学生は、本演習を履修して下さい。</b></li> <li>春学期の演習「サステナビリティ経営の基礎と実務」を履修していることを前提に授業を進めます。秋学期から履修を検討する場合は、サステナビリティ経営の基礎について予めご自身で学んでいただければと思います。</li> </ul>					
オープンゼミ・説明会					
オープンゼミ開催有無	無	質問があれば、担当教員まで直接ご連絡下さい( <a href="mailto:sakurai@hosei.ac.jp">sakurai@hosei.ac.jp</a> )			
説明会開催有無	無				
備考					
<ul style="list-style-type: none"> <li>担当教員は実務家教員(現役のサステナビリティコンサルタント)であり、「ビジネスと人権」や「労働 CSR」、「サプライチェーン管理」等を専門にコンサルティング業務に従事しています。それらの経験を踏まえて、具体的な事例を交えながら授業を行います。</li> </ul>					

# 2026 年度研究会募集要項

研究会B（人間環境演習）を希望する学生は、全員必ず応募を行ってください。

<b>B</b>		学習支援システム応募用授業コード		25100342	
テーマ	災害の歴史と経験を考える－発生・対応・現代へ－				
担当者	杉戸 信彦	開講期	春学期	※変更可能性有 曜日時限	火曜日 3 限
関連するコース	すべてのコース				
授業の到達目標			授業のテーマ		
<ul style="list-style-type: none"> <li>自然災害の特徴について自然と社会の両側面から説明できる。</li> <li>実際に発生した自然災害から何を学ぶべきか、また現代ならではの課題について説明できる。</li> <li>調査法や発表法を身につける。</li> <li>地図を活用できる。</li> </ul>			<p>湿潤変動帯に位置する日本列島においては、自然環境からさまざまな恩恵を受ける一方で、地震や火山噴火、豪雨などによる災害が繰り返し発生してきました。</p> <p>本研究会（本演習）では、<u>主に明治以降に発生した自然災害に注目して、その地理学的特徴や被害、当時の社会の対応、その後について理解を深め、何を学ぶべきか考えるとともに、時代背景を踏まえながら現代社会ならではの課題について考えます。</u></p>		
授業の進め方					
<p><u>文献講読を中心とし、グループワークやディスカッション、時の話題の紹介などにも取り組みます。</u></p> <p>文献講読では、主に明治以降に発生した<u>それぞれの自然災害の自然的・社会的特徴に関わる資料</u>（発生メカニズムと土地条件、被害状況、社会の対応、復旧・復興ほか）や、<u>災害と時代背景を考える文献</u>などを扱う予定です。</p> <p>グループワークのテーマは、文献講読をすすめる中で、学生のみなさんの問題意識や興味関心を考慮しながら検討していきます。</p>					
学生の皆さんへのメッセージ					
<p>自然災害が相次いで発生するなかで、防災力の高い持続可能な地域社会の構築に向けた取り組みが求められています。これまでに発生した自然災害から最大限を学び、時代背景を踏まえて検討することにより、<u>私たちはいま、あるいは長期的な視点でどのような具体的な取り組みをすすめていけるのか、考えていきましょう。</u></p>					
授業外で行うべき学習活動（準備学習等）			成績評価基準		
資料収集や調査、発表準備、まとめ等を行う。			平常点やレポート等の総合評価（100%）		
募集にあたってのお知らせ（選抜方法・その他）					
募集対象学年	新 2～4 年生計 15 名程度				
<p>志望調査票に、志望理由と取り組みたいテーマを記してください。後者は箇条書きでも構いません。</p> <p>選抜は、志望調査票の記述内容や面接などによって行います。詳細は学習支援システムに仮登録して確認してください。なお、応募締め切り後の連絡には、学習支援システムに加えて<u>メール（stu アドレス宛）も使用</u>します。確認するようにしてください。</p> <p>本研究会（本演習）では、自然災害と防災に関する知識を学びながら取り組んでいきます。</p>					
オープンゼミ・説明会					
オープンゼミ開催有無	無	<p>説明会を 10/27（月）・28（火）の昼休み（12:40～13:00）に BT1003 教室にて実施します。是非ご参加ください。詳細は学習支援システムに仮登録して確認してください。</p>			
説明会開催有無	有				
備考					
質問等は杉戸までメールをお送りください。					

# 2026 年度研究会募集要項

研究会B（人間環境演習）を希望する学生は、全員必ず応募を行ってください。

<b>B</b>		学習支援システム応募用授業コード		25100343	
テーマ	温暖化対策・エネルギー問題を経済の視点から考える				
担当者	杉野誠	開講期	秋学期	※変更可能性有 曜日時限	木曜日 3限
関連するコース	サステイナブル経済・経営コース    ローカル・サステイナビリティコース グローバル・サステイナビリティコース    人間文化コース    環境サイエンスコース				
授業の到達目標			授業のテーマ		
本研究会では、(1)都市における環境問題を広い視野でとらえ、(2)各自の価値基準に基づく政策思考力を高め、(3)他者に意見を伝え・議論できるようになることを目的とします。			温暖化対策・エネルギー問題を取り扱います。		
授業の進め方					
文献の精読を行う。毎回、レポーターを選び報告をする(レポーターは、毎回授業内で決定)。レポーター以外は、質問や議論を活発に行うこと。また、各自のまとめレポートの進捗状況を定期的に報告する。					
学生の皆さんへのメッセージ					
本研究会では、都市における環境問題(2025 年度は温暖化対策・エネルギー問題)について議論を交えながら改善方法や現行制度の問題点を学んでいきます。そのため、受講生間のコミュニケーションを重視します。くわえて、他者に対する気配りや最後まで諦めないことも重視します。 英語の文献を読む場合があります。					
授業外で行うべき学習活動（準備学習等）			成績評価基準		
テキスト・資料の熟読、関連情報の収集および報告資料の作成 まとめレポートのトピックを決定し、各自でレポート進める。			本演習の成績は以下の4点に基づいて決定します。 ① 報告資料の内容 ② プレゼンテーション能力 ③ 議論への参加(発言内容) ④ まとめレポート		
募集にあたってのお知らせ（選抜方法・その他）					
募集対象学年	新 2～4年生各学年 10 名まで(合計 30 名)				
選考方法：志望理由書をもとに選考いたします。なお、オンラインでの面談を行う可能性があります。面談の内容は、(1)研究会のテーマに対する熱意(動機)、(2)積極性(コミュニケーション)および(3)その他となります。これらを総合的に判断いたします。 その他：履修期間は、 <u>半期のみ</u> となります。					
オープンゼミ・説明会					
オープンゼミ開催有無	有	オープンゼミ・説明会の情報詳細は			
説明会開催有無	無	学習支援システムに仮登録して確認してください。			
備考					

# 2026 年度研究会募集要項

研究会B（人間環境演習）を希望する学生は、全員必ず応募を行ってください。

<b>B</b>		学習支援システム応募用授業コード		25100344	
テーマ	人間コミュニケーション I (Human Communication I)				
担当者	ストックウェル・エスター	開講期	春学期	※変更可能性有 曜日時限	月曜日 2 限
関連するコース	全てのコース				
授業の到達目標			授業のテーマ		
<p>This course will help students build a strong foundation in human communication. By the end of the semester, they will understand the basic definitions, components, and models of communication, and recognize how perception and self-awareness shape personal identity and interactions. Students will examine both verbal and non-verbal communication, learning how language and non-verbal codes can enhance or hinder understanding, and how to use them more effectively. They will also develop listening and critical thinking skills by exploring different types of listening, correcting misconceptions, and applying strategies to become more effective communicators.</p>			<p>This course introduces key themes in human communication. Students will study the foundations of communication, including definitions, components, and models, and explore how perception and self-awareness shape interaction. The course will also examine verbal and non-verbal communication, focusing on their roles, challenges, and strategies for improvement. Finally, students will develop listening and critical thinking skills to better understand, evaluate, and respond in diverse communication contexts.</p>		
授業の進め方					
<p>Classes will consist of a series of short lectures supported by visual materials, followed by group and class discussions based on the lecture content. Students are expected to prepare for each session by reading the assigned articles related to the upcoming topics.</p>					
学生の皆さんへのメッセージ					
<p>言葉そのものはメッセージを伝えますが、表情、姿勢、服装なども相手に多くのメッセージを伝えています。コミュニケーション学は、社会学、心理学、経済学、政治学、法学、文学、言語学、工学、医学など、幅広い学問分野の基盤となっており、人間は何らかの形でコミュニケーションを取らなければ生きていくことはできません。また、家族や友人関係といった人間関係においても欠かすことができない要素です。すべてのコミュニケーションはまず自分を理解することから始まり、その後、周囲の人々、学校や会社、さらには社会全体にまで影響を及ぼします。</p> <p>この授業は語学そのものを目的とするのではなく、「コミュニケーション」という分野を英語で学ぶことを目的としています。コミュニケーション・スタディーズに関心のある方の参加をお待ちしています。</p>					
授業外で行うべき学習活動（準備学習等）			成績評価基準		
<p>Students are required to prepare for class by reading handouts and assigned articles on the upcoming topics.</p>			<p>Active participation in class discussions is expected. Students will be assessed through a combination of weekly participation, presentations, and written assignments. Evaluation will focus on how well students understand and apply the course content, rather than on their English language proficiency.</p>		
募集にあたってのお知らせ（選抜方法・その他）					
募集対象学年	新 2-4 年生				
<p>Student numbers are limited to a maximum of 14.</p> <p>この研究会について質問がある学生はストックウェルまでメール(<a href="mailto:estock@hosei.ac.jp">estock@hosei.ac.jp</a>)にて連絡してください。</p>					
オープンゼミ・説明会					
オープンゼミ開催有無	有・無	オープンゼミ・説明会の情報詳細は			
説明会開催有無	有・無	学習支援システムに仮登録して確認してください。			
備考					



# 2026 年度研究会募集要項

研究会B（人間環境演習）を希望する学生は、全員必ず応募を行ってください。

<b>B</b>		学習支援システム応募用授業コード		25101001	
テーマ	人間コミュニケーション II (Human Communication II)				
担当者	ストックウェル・エスター	開講期	秋学期	※変更可能性有 曜日時限	月曜日 2 限
関連するコース	全てのコース				
授業の到達目標			授業のテーマ		
This course aims to deepen students' understanding of human communication by focusing on how it functions in different contexts. By the end of the semester, students will be able to explain the unique features of interpersonal, group, organisational, intercultural, mediated, and mass communication. They will also recognise the challenges of intercultural interaction and develop strategies for improvement. In addition, the course examines the role of technology and media in shaping communication and introduces both quantitative and qualitative research methods, preparing students for further academic study.			The course explores communication in a variety of real-world contexts. Topics include interpersonal communication and relationship building, small-group dynamics and leadership, and organisational communication within different structures and networks. Students will also examine intercultural communication, focusing on cultural differences and strategies for improvement, as well as mediated communication, comparing synchronous and asynchronous forms. Finally, the course investigates mass communication, including media effects and agenda-setting, and introduces basic research methods for analyzing communication.		
授業の進め方					
Classes will consist of a series of short lectures supported by visual materials, followed by group and class discussions based on the lecture content. Students are expected to prepare for each session by reading the assigned articles related to the upcoming topics.					
学生の皆さんへのメッセージ					
この授業では、さまざまなタイプの人間コミュニケーションに焦点を当て、それぞれの場面で効果的に伝えるための戦略を学びます。対人関係における信頼の築き方や、グループや組織の中での情報共有とリーダーシップの在り方を探るとともに、異文化間コミュニケーションにおける文化的差異や誤解の要因を理解し、より円滑な交流を目指します。さらに、SNS やオンライン会議などメディアを介したコミュニケーションの特徴を考察し、同時型・非同時型のやり取りの違いにも注目します。マスメディアが社会に与える影響や情報の受け手としての批判的思考を養い、研究の基本的手法も身につけます。多様な視点から人間のコミュニケーションを学び、現代社会で生きる実践的な力を育てましょう。					
授業外で行うべき学習活動（準備学習等）		成績評価基準			
Students are required to prepare for class by reading handouts and assigned articles on the upcoming topics.		Active participation in class discussions is expected. Students will be assessed through a combination of weekly participation, presentations, and written assignments. Evaluation will focus on how well students understand and apply the course content, rather than on their English language proficiency.			
募集にあたってのお知らせ（選抜方法・その他）					
募集対象学年	新 2～4 年生で、「人間コミュニケーション I」に応募している、または受講を予定している学生 ※「人間コミュニケーション I のみ応募」は可、「人間コミュニケーション II のみ応募」は不可。				
Student numbers are limited to a maximum of 14. この研究会について質問がある学生はストックウェルまでメール( <a href="mailto:estock@hosei.ac.jp">estock@hosei.ac.jp</a> )にて連絡してください。					
オープンゼミ・説明会					
オープンゼミ開催有無	有・無	オープンゼミ・説明会の情報詳細は			
説明会開催有無	有・無	学習支援システムに仮登録して確認してください。			
備考					

# 2026 年度研究会募集要項

研究会B（人間環境演習）を希望する学生は、全員必ず応募を行ってください。

B		学習支援システム応募用授業コード		25100345	
テーマ	緑豊かで生物息づく都市に向けて				
担当者	高田 雅之	開講期	春学期	※変更可能性有 曜日時限	木曜日 2限
関連するコース	全てのコースが対象				
授業の到達目標			授業のテーマ		
ゼミでは「緑・水・生物」の視点から人と自然にとって持続可能な都市を探求します。防災・造園・健康・生物多様性・計画・教育・地域など様々な分野からのアプローチを試み、フィールドワークや国内外事例研究を含めて、 <b>多面的知識と俯瞰的な視点</b> から都市環境を考え、望ましい姿をイメージできる <b>思考力</b> を高めることを目標とします。併せて、千代田区が取り組んでいる環境マネジメントシステムである CES(千代田エコシステム)への貢献も目指します。			千代田区を含む都市全体を対象に以下に取り組みます。 ①緑・水・多様な生物など都市の自然を構成している個々の要素について理解と知識を深めます。 ②街路樹・公園・都市農業・河川や海岸など都市を構成する自然的空間の果たす役割と機能を考究します。 ③計画・環境教育・コミュニティ・企業活動・健康・景観づくり・防災など人間との関係価値について探求します。 ④認証制度・グリーンインフラなどこれらを関連づける仕組みやシステムから持続的な都市を発案します。		
授業の進め方					
① <b>グループ研究</b> …設定したテーマについてグループで調査・討論・取りまとめ・プレゼンテーションを行い、「課題設定→情報収集→分析評価→提案」を通して <b>課題への知識と理解</b> を高めます。					
② <b>個人プレゼン</b> …個々人の関心に応じたテーマを自由に設定してプレゼンにより問題提起と討論を行い、個々の学びを高めます。					
③ <b>フィールドワーク</b> …ゼミの時間を活用して、様々な取り組みの実際を学ぶ、またはグループで探索調査して取りまとめるほか、週末の野外学習等の活動にも積極的に参加いただきます。					
④ <b>実践的な力の醸成</b> …これらを積み重ね、組み合わせ、持続可能な都市に向けたアイデアや提案を取りまとめることを通して、 <b>俯瞰力・構想力・実践的・思考力</b> を高めていきます。					
学生の皆さんへのメッセージ					
持続可能な都市は、持続可能な社会を考える重要な場だと思います。その中で自然環境(緑・水・生物)が果たす役割が国／都市の政策に位置づけられるなど世界的に重要視されています。このゼミではひとつの課題に対して様々な角度から視線を当て、その反射光を柔軟に受け止めてひとつの形に組み立てる力を目指します。多様な授業の進め方とアプローチ分野に対して、 <b>高い関心と意欲を持って積極的に参加</b> できる方を歓迎します。					
授業外で行うべき学習活動（準備学習等）			成績評価基準		
「授業の進め方」①～④に関して、必要な準備や調査を行うほか、日頃の学習の中でヒントやアイデアを常に探し、それをゼミ学習に生かすよう心掛けて下さい。			提出物の内容と期日遵守の他、学習意欲、受講態度、グループワークへの貢献、ゼミ運営への率先と貢献、そのほか野外活動への参加などを総合的に評価します。		
募集にあたってのお知らせ（選抜方法・その他）					
募集対象学年	新2年生、新3年生、新4年生				
募集人数: 15～20名程度					
選考: 選考は教員の都合(サバティカル)で面接ができないため、 <b>書面のほか、簡単な Google form アンケートと動画メッセージ提出</b> により行います。志望調査表には志望理由のほかに関心あるテーマと理由、その他ゼミへの抱負を書いて下さい。選考に関する連絡は <b>学習支援システム(Hoppii)</b> でお知らせしますので随時確認して下さい。					
オープンゼミ・説明会					
オープンゼミ開催有無	有	オープンゼミ(10月23日を予定:BT805)の詳細は <b>学習支援システム(Hoppii)</b> にてお知らせしますので <b>仮登録の上で確認</b> して下さい。説明会は行いませんが聞きたいことがあれば何なりと教員(mtakada@hosei.ac.jp)に問い合わせして下さい。			
説明会開催有無	無				
備考					

## 2026 年度研究会募集要項

研究会B（人間環境演習）を希望する学生は、全員必ず応募を行ってください。

<b>B</b>		<b>学習支援システム応募用授業コード</b>		<b>25100346</b>	
<b>テーマ</b>	文化人類学的エスノグラフィーの基礎を学び、文化を探る①				
<b>担当者</b>	高橋五月	<b>開講期</b>	春学期	※変更可能性有 <b>曜日時限</b>	木曜日3限
<b>関連するコース</b>	全てのコース(但し、翌年度 A ゼミ履修を希望する場合は人間文化コース選択を奨励します)				
<b>授業の到達目標</b>			<b>授業のテーマ</b>		
1) 文化人類学とエスノグラフィーについての基本的な理解を得る、2) エスノグラフィーの実践体験する、3) リサーチクエストを立て・育てる、4) 研究計画を作成し、発表する。			エスノグラフィー（人の話を聞き、行動を観察し、その社会・文化背景を考察する）という調査手法の基礎を学び、各自で実際に現地調査を行い、データ分析し、論文にまとめる。研究テーマ選択は自由！（例：市民楽団、占い、推し活、「伝統」服、ハンドメイドショップ、等々）		
<b>授業の進め方</b>					
<p>本研究会（春学期）は大きく分けて3つの活動で構成されます。</p> <p>① エスノグラフィー入門：テキストを講読、議論しながら、エスノグラフィーの基礎的知識を得る。</p> <p>② 各自の研究テーマを設定し、事前調査を実行、発表、意見交換する。</p> <p>③ 事前調査の結果をもとに、調査研究計画書を作成し、発表する。</p>					
<b>学生の皆さんへのメッセージ</b>					
<p>身近な社会問題や文化的営みに注目し、「当たり前」と思っていたことに疑問を見出し、<b>新たな謎</b>を発見する。そして、その謎についてエスノグラフィーという調査手法を用いて探求するというのがこのゼミの趣旨です。調査対象者の方々の話を聞き、彼らの日常生活の一部を観察させてもらうというのは、簡単なようで難しく、しかし刺激的で面白い研究方法です。しかも、(少し大げさかもしれませんが) エスノグラフィー的視点は日常に面白さを見出すことができ、人生を豊かにします。「<b>正解</b>」がない学問ですが、<b>謎</b>や<b>モヤモヤ</b>を楽しみながら、頭と体を使った知の探求を一緒に楽しみましょう！</p>					
<b>授業外で行うべき学習活動（準備学習等）</b>			<b>成績評価基準</b>		
テキストや関連文献の講読、文献感想文、ファシリテーター、調査準備、現地調査、発表準備、論文作成			平常点（意見交換への参加など）、フィールドワーク、発表、文献感想文や論文による総合評価		
<b>募集にあたってのお知らせ（選抜方法・その他）</b>					
<b>募集対象学年</b>	新2、3年生(15名程度)				
<p>・高橋Bゼミは<b>春・秋学期の連続履修を奨励</b>します（留学等の理由により1年間で完了できない場合は応相談）。</p> <p>・高橋Aゼミ入会には<b>Bゼミ履修</b>（春・秋両方）を<b>推奨</b>します。将来的に高橋Aゼミで卒論に取り組みたい場合は、まずBゼミにてエスノグラフィー基礎知識を習得してください。<b>Bゼミ履修者は希望者全員がAゼミに参加可能</b>です。</p> <p>・Bゼミのみ履修希望（将来的なAゼミ入会を希望しない方）も大歓迎です。毎年半数程度がBゼミのみ履修しています。</p> <p>・応募の際は、志望理由の欄に現時点で興味のある調査テーマとその理由も書いてください。</p> <p>応募者多数の場合は、志望票の内容（第1次審査）と、面接（第2次審査）によって選抜します。第1次審査通過者リストと面接の詳細はWebClassを確認してください。</p>					
<b>オープンゼミ・説明会</b>					
<b>オープンゼミ開催有無</b>	有	10/23, 11/6, 11/13(木)4限@BT901で開催予定。教室に直接お越しください。			
<b>説明会開催有無</b>	有	質問等は高橋<stakahashi@hosei.ac.jp>に気軽にご連絡ください。			
<b>備考</b>					

# 2026 年度研究会募集要項

研究会B（人間環境演習）を希望する学生は、全員必ず応募を行ってください。

B		学習支援システム応募用授業コード		25101403	
テーマ	文化人類学的エスノグラフィーの基礎を学び、文化を探る②				
担当者	高橋五月	開講期	秋学期	※変更可能性有 曜日時限	木曜日3限
関連するコース	全てのコース(但し、翌年度 A ゼミ履修を希望する場合は人間文化コース選択を奨励します)				
授業の到達目標			授業のテーマ		
1) 文化人類学とエスノグラフィーについての基本的な理解を得る、2) エスノグラフィーの実践体験する、3) リサーチクエストを立て・育てる、4) 春学期に作成した調査計画をもとに夏期休暇中に現地調査を実行し、得たデータを分析し、論文にする。			エスノグラフィー（人の話を聞き、行動を観察し、その社会・文化背景を考察する）という調査手法の基礎を学び、各自で実際に現地調査を行い、データ分析し、論文にまとめる。研究テーマ選択は自由！（例：市民楽団、占い、推し活、「伝統」服、ハンドメイドショップ、等々）		
授業の進め方					
本研究会（秋学期）は大きく分けて3つの活動で構成されます。 ① エスノグラフィー入門：テキストを講読、議論しながら、エスノグラフィーの基礎的知識を得る。 ② 春学期に作成した調査計画をもとに夏期休暇中に実行した現地調査で得たデータを分析する。 ③ 現地調査の結果をもとにリサーチクエストを再検討し、先行研究と対話しながら、論文にまとめる。					
学生の皆さんへのメッセージ					
身近な社会問題や文化的営みに注目し、「当たり前」と思っていたことに疑問を見出し、新たな謎を発見する。そして、その謎についてエスノグラフィーという調査手法を用いて探求するというのがこのゼミの趣旨です。調査対象者の方々の話を聞き、彼らの日常生活の一部を観察させてもらうというのは、簡単なようで難しく、しかし刺激的で面白い研究方法です。しかも、(少し大げさかもしれませんが) エスノグラフィー的視点は日常に面白さを見出すことができ、人生を豊かにします。「正解」がない学問ですが、謎やモヤモヤを楽しみながら、頭と体を使った知の探求を一緒に楽しみましょう！					
授業外で行うべき学習活動（準備学習等）			成績評価基準		
テキストや関連文献の講読、文献感想文、ファシリテーター、調査準備、現地調査、発表準備、論文作成			平常点（意見交換への参加など）、フィールドワーク、発表、文献感想文や論文による総合評価		
募集にあたってのお知らせ（選抜方法・その他）					
募集対象学年	新2、3年生(15名程度)				
<ul style="list-style-type: none"><li>高橋Bゼミ（秋学期）は高橋Bゼミ（春学期）を受講済みの方のみ参加できます。</li><li>高橋Aゼミ入会にはBゼミ履修（春・秋両方）を推奨します。将来的に高橋Aゼミで卒論に取り組みたい場合は、まずBゼミにてエスノグラフィー基礎知識を習得してください。Bゼミ履修者は希望者全員がAゼミに参加可能です。</li><li>Bゼミのみ履修希望（将来的なAゼミ入会を希望しない方）也大歓迎です。毎年半数程度がBゼミのみ履修しています。</li><li>応募の際は、志望理由の欄に現時点で興味のある調査テーマとその理由も書いてください。</li></ul> 応募者多数の場合は、志望票の内容（第1次審査）と、面接（第2次審査）によって選抜します。第1次審査通過者リストと面接の詳細はWebClassを確認してください。					
オープンゼミ・説明会					
オープンゼミ開催有無	有	10/23, 11/6, 11/13(木)4限@BT901で開催予定。教室に直接お越しください。			
説明会開催有無	有	質問等は高橋<stakahashi@hosei.ac.jp>に気軽にご連絡ください。			
備考					



# 2026 年度研究会募集要項

研究会B（人間環境演習）を希望する学生は、全員必ず応募を行ってください。

<b>B</b>		学習支援システム応募用授業コード		25100347	
テーマ	英文契約の基礎				
担当者	永野秀雄	開講期	春学期	※変更可能性有 曜日時限	金曜日 4限
関連するコース	グローバル・サステイナビリティコース				
授業の到達目標			授業のテーマ		
受講者の皆さんが、社会に出て国際的に活躍されるときに遭遇する英文契約を読む基礎力を身につけることを目標とします。			本研究会では、英語で書かれた基本的な契約書（英米法に基づくもの）を読むための勉強をします。英文契約書の英語は、特殊なものです。そのための基本的な用語や文例を学んでいきます。		
授業の進め方					
まず、担当教員が、初歩的な教科書をもとに、英文契約の基本を解説していきます。授業の途中で何回か、教科書にでてくる用語や文例を覚えて頂き、確認する小テストを行います。教科書を終えたのち、実際に用いられている英文契約書（プリント）を用いて、皆さんに読んで頂きます。受講生何名かで構成される班による発表形式を取ります。難しい箇所は、担当教員が解説いたします。					
学生の皆さんへのメッセージ					
一昔前までは、企業で英文契約書を読む必要のある人は、国際法務部員などの一部の専門家に限られていました。しかし、現在、国際法務部などの部門は、契約書の交渉と作成（起案）、国際入札、国際的な訴訟などの業務に追われています。その結果、日常的に用いられる普通の英文契約は、国際部門の営業職のみならず、国内の調達部門、財務部門、製造部門、環境部門をはじめ、多くの総合職の方々に読むことが求められる時代になりました。是非とも多くの皆さんに、その基本的な知識を身につけて頂きたいと思います。					
授業外で行うべき学習活動（準備学習等）			成績評価基準		
教科書で指定された小テストの箇所（一定の長さの条文や単語）を覚えて来て下さい。また、実際の英文契約書の訳を班ごとに発表するときに和訳や説明をしたレジュメの準備をお願いします。			平常点のみです。小テストの結果、班の発表等で評価します。なお、3回以上欠席したり、小テストの勉強や発表準備をしてこなかったりした場合には、単位をあげることはできません。		
募集にあたってのお知らせ（選抜方法・その他）					
募集対象学年	新2・3年生。				
<p>応募は、Hoppii の[2026年度応募用]研究会B で受け付けます。募集にあたっては、教員による面接を行います。自己紹介と志望理由について、合計3分でスピーチしてください。面接の日時は、応募〆切の後、数日以内に Hoppii に掲示しますので、必ず確認して下さい</p> <p>このゼミに関して質問がある場合には、面接時に担当教員にお尋ね下さい。</p>					
オープンゼミ・説明会					
オープンゼミ開催有無	無				
説明会開催有無	無				
備考					

# 2026 年度研究会募集要項

研究会B（人間環境演習）を希望する学生は、全員必ず応募を行ってください。

<b>B</b>		学習支援システム応募用授業コード		25100348	
テーマ	人間と森林の〈過去〉〈現在〉〈未来〉				
担当者	芳賀 和樹	開講期	春学期	※変更可能性有 曜日時限	月曜日 5 限
関連するコース	すべてのコース				
授業の到達目標			授業のテーマ		
1) 資料(データ)の整理の仕方や読み解き方、専門用語の使い方を習得し、 <u>長期的視野に基づいて論理的に思考</u> できるようになる 2) 森林が有する機能や森林の利用・管理の展開を、具体的な事例に基づいて説明できるようになる 3) 自ら「問い」を立て、適切な方法を用いて調査し、各自の「答え」を導き出せるようになる 4) 多様な意見を尊重しながら建設的に議論できるようになる			森林は、木材などの物質生産だけでなく、災害リスクの低減、生物多様性の保全、レクリエーション・環境教育・健康維持のための空間の提供など、多面的な機能を有しています。近年では、「 <u>グリーンインフラ(緑の社会資本)</u> 」とも呼ばれ、その重要性に改めて注目が集まっています。 この研究会では、 <u>時間としては江戸時代～現在、そして未来を、空間としては主に日本をとりあげ、人間と森林の関係を、長期的かつ多角的な視野から考察・展望します。</u>		
授業の進め方					
①映像資料、歴史資料、入門書などから、 <u>〈過去〉の森林利用・管理の展開</u> を把握する。 ②森林・林業に関する最新のデータやトピックが掲載されている『森林・林業白書』から、 <u>〈現在〉の動向・課題</u> を探る。 ③関心に基づいて「問い」を立て、調査し、「答え」を共有・議論することを通じて、 <u>人間と森林の〈未来〉を展望</u> する。					
学生の皆さんへのメッセージ					
教員の主な研究分野は「 <u>日本史</u> 」「 <u>環境史</u> 」「 <u>森林政策学</u> 」です。「歴史は暗記系の学問」というイメージがあるかもしれませんが、歴史学の醍醐味は、データを時系列順に整理し、人間がこれまでどのように生きてきたのか、どのように生きていくのかを考えるとところにあると思います。未来を考えると、人間は検討材料として過去を参照します。 <u>長期的視野から過去・現在・未来を見通そうとするのが歴史学</u> だといえるでしょう。 ところで、この研究会がとりあげる森林は、成長するのにおおむね数十年から数百年の長い期間を必要とします。このため、 <u>森林の利用・管理にも、同じくらい長期的な視野が必要</u> となります。現代に生きる私たちからすれば、たとえば 150～400 年前の江戸時代は遠い過去のように思われますが、森林の視点に立てば、それほど昔のことではないのです。 これまで日本は、江戸時代、明治期、第2次世界大戦期などに、「 <u>過剰利用(オーバーユース)</u> 」による森林の荒廃を経験してきました。しかし近年では、外国産材の利用や担い手の不足などを背景に、「 <u>過少利用(アンダーユース)</u> 」による森林の荒廃が問題となっています。これに対し、 <u>森林空間の新たな利用や、インテリアショップとの連携による商品開発など、人間と森林の関係を再構築する動き</u> もみられるようになりました。人間と森林が <u>〈過去〉から〈現在〉まで長期にわたって取り結んできた関係を丁寧に解きほぐしながら、人間と森林の〈未来〉について一緒に考えてみませんか。</u>					
授業外で行うべき学習活動（準備学習等）			成績評価基準		
発表の準備（データの収集と整理、資料の作成など）			平常点、発表、質疑・討論などを総合的に評価します。		
募集にあたってのお知らせ（選抜方法・その他）					
募集対象学年	新2～4年生				
参加希望者は、志望調査票に、 <u>この研究会を志望する理由（この研究会を自身の学習・スキルアップのためにどのように活用したいか）</u> をできるだけ具体的に記入して提出してください。必要に応じて、調査票に基づき面接を実施します。					
オープンゼミ・説明会					
オープンゼミ開催有無	有	下記日程でオープンゼミを開催します。そのなかで簡単な説明会を実施します。 ただし2025年度と2026年度はテーマが異なりますので、この点については、あらかじめご了承ください。詳細は学習支援システムに仮登録して確認してください。 10月27日(月)5限 / 11月10日(月)5限			
説明会開催有無	有				
備考					
10/24(木)午後の研究会個別相談会に参加予定です。詳細は学部 Web サイトを確認してください。					

# 2026 年度研究会募集要項

研究会B（人間環境演習）を希望する学生は、全員必ず応募を行ってください。

<b>B</b>		<b>学習支援システム応募用授業コード</b>		<b>25100349</b>	
<b>テーマ</b>	<b>責任ある経営とは何かを考える</b>				
<b>担当者</b>	長谷川 直哉	<b>開講期</b>	春学期	<b>※変更可能性有 曜日時限</b>	火曜日 5限
<b>関連するコース</b>	サステイナブル経済・経営コース      ローカル・サステイナビリティコース				
<b>授業の到達目標</b>			<b>授業のテーマ</b>		
大量生産・大量消費時代の 20 世紀が終わり、サステイナビリティ社会の実現が求められる 21 世紀では、企業経営のあり方にも変革が求められています。このゼミでは、責任ある経営とは何かをテーマに、未来社会で求められる企業像や企業価値とは何かについて学びます。			SDGs(持続可能な開発目標)、パリ協定(脱炭素)、責任投資原則(ESG 投資)、共通価値の創造(CSV)、統合報告書、CX(デジタルトランスフォーメーション)などのテーマを中心に、具体的な企業事例を通じて、企業経営の未来像を探求します。		
<b>授業の進め方</b>					
持続可能な社会の構築に向けた世界的な潮流を踏まえ、以下の 4 つのポイントを中心に日本企業が直面する課題について検討します。(1)SDGs とパリ協定が企業の未来に及ぼす影響とは何か、(2)責任ある経営の評価基準とは何か、(3)責任投資(ESG 投資)時代に社会から選ばれる企業とは何か、(4)AI(人工知能)などデジタル革命の成果に代替されないスキルの磨き方。2・3 年の混合チームを編成し、(1)～(4)のテーマに関する研究報告を行います。					
<b>学生の皆さんへのメッセージ</b>					
良い企業とはどのような企業でしょうか。皆さんはこの問いに答えられますか？ サステイナビリティを志向する世界的な潮流の中で、利益の量のみを基準とした 20 世紀型の企業評価システムが崩れつつあります。国内外では、企業評価において企業の社会的責任(CSR)や従業員満足度(ES)などを重視する傾向が強まっていますが、こうした流れは何を意味しているのでしょうか。この研究会では、CSRに代表される非財務情報から企業価値を評価する手法を学び、21 世紀社会で選ばれる企業とは何かを考えます。このゼミでの学びは、就職先企業を選択する際の指針にもなるでしょう。					
<b>授業外で行うべき学習活動（準備学習等）</b>			<b>成績評価基準</b>		
文献や資料の分析、ゼミでの発表に向けてサブゼミ等を実施して準備することが求められます。ゼミ活動の一環として、6 大学野球観戦や夏休みにゼミ合宿(奄美大島など)を行います。			成績評価は加点主義で、作成した報告資料や報告内容のレベル、研究会活動に対する貢献度などを総合的に評価します。		
<b>募集にあたってのお知らせ（選抜方法・その他）</b>					
<b>募集対象学年</b>	新 2・3 年生				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・志望調査票に記載された志望動機と面接(オンライン)による選考を行います。</li> <li>・研究会 B(人間環境演習)を希望する者は研究会 A にも応募することを勧めます。</li> <li>・応募者本人に直接面接の連絡をしますので、志望調査票には必ずメールアドレスを記載してください。</li> <li>・合格者は「現代企業論」、「ビジネスヒストリー」、「CSR 論Ⅰ」、「CSR 論Ⅱ」の履修を推奨します。</li> </ul>					
<b>オープンゼミ・説明会</b>					
<b>オープンゼミ開催有無</b>	有	オープンゼミ・説明会の情報詳細は学習支援システムに仮登録して確認してください。(オープンゼミ開催予定日 10/21、10/28、11/4、11/11)			
<b>説明会開催有無</b>	有				
<b>備考</b>					

# 2026 年度研究会募集要項

研究会B（人間環境演習）を希望する学生は、全員必ず応募を行ってください。

B		学習支援システム応募用授業コード		25101401	
テーマ	日本企業のサステナビリティ変革事例に学ぶ				
担当者	長谷川 直哉	開講期	秋学期	※変更可能性有 曜日時限	火曜日 5限
関連するコース	サステイナブル経済・経営コース      ローカル・サステイナビリティコース				
授業の到達目標			授業のテーマ		
大量生産・大量消費時代の 20 世紀が終わり、サステナビリティ社会の実現が求められる 21 世紀では、企業経営のあり方にも変革が求められています。このゼミでは、日本企業のサステナビリティ経営の実像を探求し、Z 世代から共感される企業像とは何かについて学びます。			大量生産・大量消費型の 20 世紀型経営から、持続可能な社会価値を創造する 21 世紀型経営へ。このゼミでは実際の企業事例をもとに「サステナビリティ経営」の実像と変革プロセスを学びます。特に人材育成、カーボンニュートラル戦略などに焦点を当て、企業がどのように社会課題の解決と企業価値向上を両立させているかを探求します。		
授業の進め方					
前半は、サステナビリティ経営・統合報告・ESG 投資の基本理論を学び、主要企業の統合報告書やサステナビリティ報告書をグループで分析します。後半は、チームごとに一社を選定し、経営戦略・ガバナンス・人的資本・環境対応などを総合的に評価する「ケーススタディ報告」を行います。発表に向けて、少人数のサブゼミで資料検討やリサーチを進め、企業訪問やサステナビリティ部門の担当者とのオンライン対話を行う機会も設けます。					
学生の皆さんへのメッセージ					
サステナビリティ経営は、「理想」ではなく「経営の新しい常識」になりつつあります。 このゼミでは、社会課題を「自分ごと」として捉え、データとストーリーで企業を読み解く力を養います。 レポートや発表を通じて、企業を批判的かつ創造的に分析する思考力を磨き、自分のキャリアにもつながる「持続可能な知の習慣」を身につけてください。積極的な発言と主体的な行動を期待します。					
授業外で行うべき学習活動（準備学習等）			成績評価基準		
文献や資料の分析、ゼミでの発表に向けてサブゼミ等を実施して準備することが求められます。ゼミ活動の一環として、6 大学野球観戦や夏休みにゼミ合宿（奄美大島など）を行います。			成績評価は加点主義で、作成した報告資料や報告内容のレベル、研究会活動に対する貢献度などを総合的に評価します。		
募集にあたってのお知らせ（選抜方法・その他）					
募集対象学年	新 2・3 年生				
・志望調査票に記載された志望動機と面接（オンライン）による選考を行います。 ・研究会 B(人間環境演習)を希望する者は研究会 A にも応募することを勧めます。 ・応募者本人に直接面接の連絡をしますので、志望調査票には必ずメールアドレスを記載してください。 ・合格者は「現代企業論」、「ビジネスヒストリー」、「CSR 論Ⅰ」、「CSR 論Ⅱ」の履修を推奨します。					
オープンゼミ・説明会					
オープンゼミ開催有無	有	オープンゼミ・説明会の情報詳細は学習支援システムに仮登録して確認してください。（オープンゼミ開催予定日 10/21、10/28、11/4、11/11）			
説明会開催有無	有				
備考					



# 2026 年度研究会募集要項

研究会B（人間環境演習）を希望する学生は、全員必ず応募を行ってください。

<b>B</b>		学習支援システム応募用授業コード		25100350	
テーマ	詩歌(俳句・短歌・漢詩など)を読む				
担当者	日 原 傳	開講期	秋学期	※変更可能性有 曜日時限	月曜日 4限
関連するコース	全てのコース				
授業の到達目標			授業のテーマ		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・詩歌(俳句・短歌・現代詩・漢詩など)に親しむ。</li> <li>・詩歌を鑑賞する力をつける。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・定型詩(俳句・短歌・漢詩など)の規則や表現技法を学ぶ。</li> </ul>		
授業の進め方					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・最初の時間に授業の進め方について説明します。</li> <li>・参加者の希望を聞いて、扱うジャンル・作品等を決め、鑑賞してゆきます。</li> <li>・各自自分の好きな詩歌を紹介する時間も設けたいと思います。担当者の説明を聞いた上で、各自の感じたことや考えたことを述べ、語り合うかたちを考えています。</li> <li>・詩歌の「実作」を希望する場合は、その機会を作ります。</li> </ul>					
学生の皆さんへのメッセージ					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・詩歌を読みかつ作ることを通じて「言葉」に対する感覚が豊かになります。次のような作品はどうでしょうか。          〈南国に死して御恩のみなみかぜ 攝津幸彦〉〈クレヨンの黄を麦秋のために折る 林桂〉          〈ふらんす野武蔵野つは野紫野あしたのゆめのゆふぐれのあめ 紀野恵〉          〈好きだった世界をみんな連れてゆくあなたのカヌー萌えるみずうみ 東直子〉</li> <li>・定型詩には規則がありますが、それを踏まえることで、却って作品は作りやすくなります。</li> </ul>					
授業外で行うべき学習活動（準備学習等）			成績評価基準		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンソロジー等を利用して、詩歌をたくさん読む。</li> </ul>			平常点(授業への参加態度・実作) 70% 最終レポート 30%		
募集にあたってのお知らせ（選抜方法・その他）					
募集対象学年	新2～4年生				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・志望者が多く選抜が必要な場合は、「志望調査票」によって選抜します。</li> <li>・他のAゼミ・Bゼミとの掛け持ちを認めます。</li> <li>・過去に担当者のBゼミの単位を取得した学生も受講を認めます（毎年、授業の内容は異なります）。</li> <li>・留学生の参加を歓迎します。その場合は、日本語が上達するように工夫して指導します。</li> </ul>					
オープンゼミ・説明会					
オープンゼミ開催有無	無	期日を決めてのオープンゼミ・説明会は行ないません。授業の見学を希望する人は担当者にメール(アドレスは履修の手引き参照)等で連絡してください。			
説明会開催有無	無				
備考					

# 2026 年度研究会募集要項

研究会B（人間環境演習）を希望する学生は、全員必ず応募を行ってください。

<b>B</b>		学習支援システム応募用授業コード		25100351	
テーマ	持続可能な社会を考える「問い」を立てる・考える				
担当者	湯澤 規子	開講期	春学期	※変更可能性有 曜日時限	火曜日 5 限
関連するコース	すべてのコース				
授業の到達目標			授業のテーマ		
①自らの「問い」を立てミニ研究に取り組む ②主体的に調べ（フィールドワークや資料収集・分析） ③研究成果の報告			この研究会では持続可能な社会を考え、実現するためにはどのような「問い」が必要かを、参加者それぞれが決めます。その「問い」に答えるための課題と方法を見つけ、それに組み、議論を深めていきます。		
授業の進め方					
Step1:持続可能な社会を考え、実現するための「問い」を考える Step2:「問い」に関する文献の精読 Step3:可能ならミニフィールドワーク（学生主体で計画、実施予定） Step4:研究成果の報告（表現は自由。どのようにアウトプットしたいか、考える）					
学生の皆さんへのメッセージ					
◆どんな小さなことでも、自分自身の問題意識や好奇心にもとづいた「問い」を立ててみてください。 ◆この研究会では、まず、参加者それぞれの「問い」を共有し、半年間でどのような「問い」に取り組むかを決定します。 ◆その「問い」を頭の片隅に置きながら日々を過ごすと、今まで見えなかったものが見えたり、気にならなかったものが気になったりしてきます。時には実際にそれを確かめるために、現場に行き、経験してください。 ◆その「発見」、「違和感」、「経験」を自分以外の誰かに伝え、一緒に考える場が研究会です。 ◆伸び伸びとした学び合いの場にしていきましょう。					
授業外で行うべき学習活動（準備学習等）			成績評価基準		
・興味関心に関わる情報を様々な視点から集める（文献、地図、写真、映画、小説、現地調査・・・） ・発表の準備（データの整理、レジュメの作成など） ・今年の「問い」にかかわる様々な体験をする			研究会への参加、発表、質疑応答、討論などを総合的に評価します。		
募集にあたってのお知らせ（選抜方法・その他）					
募集対象学年	新2年生～4年生で10名程度。				
参加希望者は①どのような問題関心（問い）を持っているのか、②なぜ参加を希望するのかを、志望調査票に記入して提出してください。調査票の内容にもとづいてオンライン面接を実施しますので、掲示板の情報に注意してください（同じ内容をメールでもお知らせします）。					
オープンゼミ・説明会					
オープンゼミ開催有無	無	個別に質問や相談を受け付けます。湯澤までご連絡ください。			
説明会開催有無	無	yuzawa.noriko@hosei.ac.jp			
備考					

# 2026 年度研究会募集要項

研究会B（人間環境演習）を希望する学生は、全員必ず応募を行ってください。

B		学習支援システム応募用授業コード		25100352	
テーマ	環境倫理学・環境美学のテキストを読む				
担当者	吉永明弘	開講期	春学期	※変更可能性有 曜日時限	木曜日3限
関連するコース	全てのコース				
授業の到達目標			授業のテーマ		
環境倫理学・環境美学の文献を読み、議論することで、環境問題について理解を深める。その成果を書評集としてまとめる。			環境倫理学・環境美学のテキストを読む		
授業の進め方					
教員が指定したテキストを各自が購入し、分担して要約をつくりながら、読み進めていく。 最後に全員の書評をまとめた冊子を作成する。					
学生の皆さんへのメッセージ					
環境倫理学や環境美学に関心があるけれども、難解な本を一人で読むのはつらい、という方がいると思います。このゼミでは、そうした難解な本をみんなでゆっくりと強制的に読むことになります。さらに、議論を通じて他の人の意見を聞くことができます。また、自分の文章を本にまとめたいという人にもおすすめです。書評の例として、環境倫理学と環境問題の本 100 冊を紹介した拙著『ブックガイド環境倫理』（勁草書房）をご覧ください。					
授業外で行うべき学習活動（準備学習等）			成績評価基準		
文献を各自で読み、担当箇所についてはレジュメにまとめること。最終的には書評を書くこと。			文献購読への参加、レジュメの発表、書評の提出によって評価する。		
募集にあたってのお知らせ（選抜方法・その他）					
募集対象学年	新 2～4 年生				
Eメールのやりとりを通じて選抜します。私からの質問に答える形で進めます。結果もメールでお伝えします。  このゼミは春学期のみの開講で、秋学期のゼミとは独立しています。したがって秋学期のゼミを履修しなくてもかまいません。もちろん両方受講していただいても結構です。					
オープンゼミ・説明会					
オープンゼミ開催有無	無	オープンゼミ・説明会の情報詳細は 学習支援システムに仮登録して確認してください。			
説明会開催有無	無				
備考					

# 2026 年度研究会募集要項

研究会B（人間環境演習）を希望する学生は、全員必ず応募を行ってください。

<b>B</b>		学習支援システム応募用授業コード		25100353	
テーマ	環境倫理学・動物倫理学のテキストを読む				
担当者	吉永明弘	開講期	秋学期	※変更可能性有 曜日時限	木曜日3限
関連するコース	全てのコース				
授業の到達目標			授業のテーマ		
環境倫理学・動物倫理学の文献を読み、議論することで、環境問題について理解を深める。その成果を書評集としてまとめる。			環境倫理学・動物倫理学のテキストを読む		
授業の進め方					
<p>教員が指定したテキストを各自が購入し、分担して要約をつくりながら、読み進めていく。 最後に全員の書評をまとめた冊子を作成する。</p>					
学生の皆さんへのメッセージ					
<p>環境倫理学や動物倫理学に関心があるけれども、難解な本を一人で読むのはつらい、という方がいると思います。このゼミでは、そうした難解な本をみんなでゆっくりと強制的に読むことになります。さらに、議論を通じて他の人の意見を聞くことができます。また、自分の文章を本にまとめたいという人にもおすすめです。書評の例として、環境倫理学と環境問題の本 100 冊を紹介した拙著『ブックガイド環境倫理』（勁草書房）をご覧ください。</p>					
授業外で行うべき学習活動（準備学習等）			成績評価基準		
文献を各自で読み、担当箇所についてはレジュメにまとめること。最終的には書評を書くこと。			文献購読への参加、レジュメの発表、書評の提出によって評価する。		
募集にあたってのお知らせ（選抜方法・その他）					
募集対象学年	新 2～4 年生				
<p>Eメールのやりとりを通じて選抜します。私からの質問に答える形で進めます。結果もメールでお伝えします。</p> <p>このゼミは秋学期のみです。春学期のゼミを履修していなくても受講可能です。もちろん両方受講していただいてもかまいません。</p>					
オープンゼミ・説明会					
オープンゼミ開催有無	無	オープンゼミ・説明会の情報詳細は 学習支援システムに仮登録して確認してください。			
説明会開催有無	無				
備考					



# 2026 年度研究会募集要項

研究会B（人間環境演習）を希望する学生は、全員必ず応募を行ってください。

<b>B</b>		学習支援システム応募用授業コード		25100354	
テーマ	IT パスポート試験とその応用(テクノロジー編)				
担当者	渡邊 誠	開講期	春学期	※変更可能性有 曜日時限	火曜日 4限
関連するコース	すべてのコース				
授業の到達目標			授業のテーマ		
IT パスポート試験(国家試験・経済産業省)の受験を念頭に関連知識、技能を修得することを目指しています。さらにそこで得た内容の応用法について検討します。春学期はテクノロジー編としてコンピュータ、ネットワーク、セキュリティなどの問題を中心に学習します。皆さんが将来社会において経験する業務やその他の様々な活動に対して、これらの知見をどのように生かせばよいのかなどについて考察できるようになることも大切な目標のひとつです。ここで得た知識は皆さんにとって社会とつながるための基礎的ツールになるという側面があります。			この試験で想定しているカリキュラムをもとに、テクノロジー編ではおおむね次の事柄について幅広く学習します。 ・コンピュータ基礎 例えば、情報の処理とその理論、記憶装置、周辺装置、表計算ソフト、データベースなど ・ネットワーク基礎 例えば、LANとWAN、クライアントとサーバ、プロトコル、暗号化技術など ・上記知識の活かし方研究		
授業の進め方					
指定した教科書をもとにして丁寧に読み進めます。テキストに掲載されている章末問題などを解くことを通して、内容の理解度を高めていきます。さらに、学習で得た知識の応用法について研究します。例えばセキュリティ対策や情報化のあり方を考えることも重要な考察事項となります。授業はキャンパス内の教室において対面で行うことを予定しています。積極性のある方々の参加をお待ちしています。					
学生の皆さんへのメッセージ					
本研究会は情報処理技術者試験における「IT パスポート試験」の取得を目指しています。そのため広範囲の内容に触れることになることを理解してください。この試験では、例えばコンピュータとネットワーク、企業と戦略、法務と財務、品質管理と各種分析法、管理と運用などに関する知識が要求されています。このうち春学期は特にテクノロジーに関するテーマを中心に学習します。この国家試験は文系の皆さんにとって有意義な資格であると考えています。					
授業外で行うべき学習活動（準備学習等）			成績評価基準		
毎回、予習・復習することが必要です。教科書、各種資料の読み込み、練習問題による検討、過去問による考察などを行います。			授業参加の積極性 100%で評価します。		
募集にあたってのお知らせ（選抜方法・その他）					
募集対象学年	新2～4年生				
連絡事項は学習支援システムに掲載しますので、注意して見てください。選抜に際して面接は行いません。受講者数としては20名程度を想定しています。受講希望者数がこの数を超えた場合には、提出された志望調査票をもとに受講者を選抜する予定です。春学期開講の「テクノロジー編」と秋学期開講の「ストラテジ・マネジメント編」は両方ともに独立した科目であるため、それぞれ募集を行います。国家試験を受験するためには春・秋学期の両方を履修することをお勧めします。					
オープンゼミ・説明会					
オープンゼミ開催有無	無	オープンゼミは開催しません。説明会の詳細情報は学習支援システムに仮登録して確認してください。			
説明会開催有無	有				
備考					
説明会(募集相談会)は、入退室自由としています。お気軽に参加してください。皆さんの参加を歓迎しています。					

# 2026 年度研究会募集要項

研究会B（人間環境演習）を希望する学生は、全員必ず応募を行ってください。

<b>B</b>		<b>学習支援システム応募用授業コード</b>		<b>25101002</b>	
<b>テーマ</b>	<b>IT パスポート試験とその応用(ストラテジ・マネジメント編)</b>				
<b>担当者</b>	<b>渡邊 誠</b>	<b>開講期</b>	<b>秋学期</b>	<b>※変更可能性有 曜日時限</b>	<b>火曜日 4限</b>
<b>関連するコース</b>	<b>すべてのコース</b>				
<b>授業の到達目標</b>			<b>授業のテーマ</b>		
IT パスポート試験(国家試験・経済産業省)の受験を念頭に関連知識、技能を修得することを目指しています。さらにそこで得た内容の応用法について検討します。秋学期はストラテジ・マネジメント編として企業戦略、組織運用、法務と財務、システムの管理・運用などの問題を中心に学習します。皆さんが将来社会において経験する業務やその他の様々な活動に対して、これらの知見をどのように生かせばよいのかなどについて考察できるようになることも大切な目標のひとつです。ここで得た知識は皆さんにとって社会とつながるための基礎的ツールになるという側面があります。			この試験で想定しているカリキュラムをもとに、ストラテジ・マネジメント編ではおおむね次の事柄について幅広く学習します。 ・企業活動と戦略 例えば、経営戦略、組織と業務、業績評価、各種分析ツールなど ・法務と財務 例えば、知的財産権、財務と財務諸表など ・システム開発と管理・運用 例えば、システム設計と開発モデル、プロジェクトマネジメントなど ・上記知識の活かし方研究		
<b>授業の進め方</b>					
指定した教科書をもとにして丁寧に読み進めます。テキストに掲載されている章末問題などを解くことを通して、内容の理解度を高めていきます。さらに、学習で得た知識の応用法について研究します。例えばセキュリティ対策や情報化のあり方を考えることも重要な考察事項となります。授業はキャンパス内の教室において対面で行うことを予定しています。積極性のある方々の参加をお待ちしています。					
<b>学生の皆さんへのメッセージ</b>					
本研究会は情報処理技術者試験における「IT パスポート試験」の取得を目指しています。そのため広範囲の内容に触れることになることを理解してください。この試験では、例えばコンピュータとネットワーク、企業と戦略、法務と財務、品質管理と各種分析法、管理と運用などに関する知識が要求されています。このうち秋学期は特にストラテジ・マネジメント(戦略と管理・運用)に関するテーマを中心に学習します。この国家試験は文系の皆さんにとって有意義な資格であると考えています。					
<b>授業外で行うべき学習活動（準備学習等）</b>			<b>成績評価基準</b>		
毎回、予習・復習することが必要です。教科書、各種資料の読み込み、練習問題による検討、過去問による考察などを行います。			授業参加の積極性 100%で評価します。		
<b>募集にあたってのお知らせ（選抜方法・その他）</b>					
<b>募集対象学年</b>	<b>新2～4年生</b>				
連絡事項は学習支援システムに掲載しますので、注意して見てください。選抜に際して面接は行いません。受講者数としては20名程度を想定しています。受講希望者数がこの数を超えた場合には、提出された志望調査票をもとに受講者を選抜する予定です。春学期開講の「テクノロジー編」と秋学期開講の「ストラテジ・マネジメント編」は両方ともに独立した科目であるため、それぞれ募集を行います。国家試験を受験するためには春・秋学期の両方を履修することをお勧めします。					
<b>オープンゼミ・説明会</b>					
<b>オープンゼミ開催有無</b>	<b>無</b>	オープンゼミは開催しません。説明会の詳細情報は学習支援システムに仮登録して確認してください。			
<b>説明会開催有無</b>	<b>有</b>				
<b>備考</b>					
説明会(募集相談会)は、入退室自由としています。お気軽に参加してください。皆さんの参加を歓迎しています。					